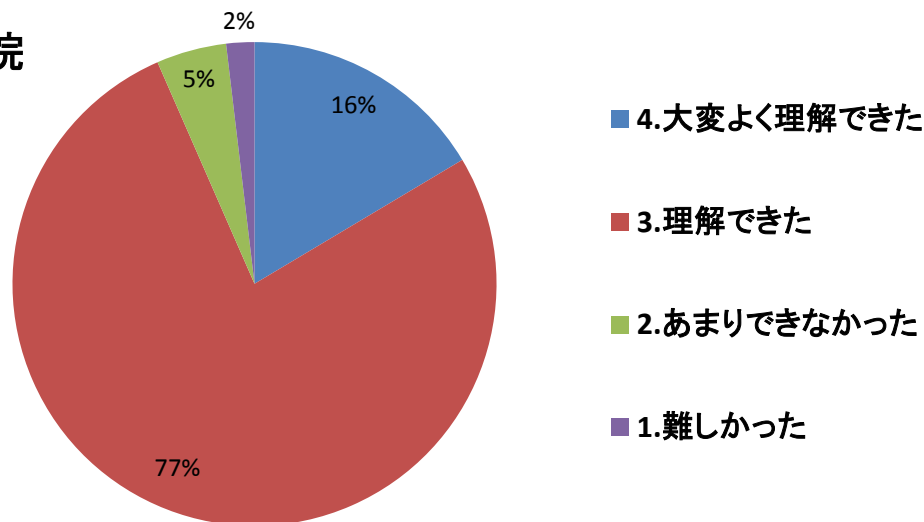


⑤ 院内急変対応－院内教育－

医療法人医誠会 医誠会病院
副院長・救命救急科部長
川嶋 隆久



- RRSは、病院全体の協力なくしては成り立たない、また組織全体での取り組みが必要であることを学びました。それには、医療にかかわるものすべてが継続的な院内教育が必要であることもあわせて学ぶことができ、コメディカルが連携、協力することにより、RRSの基盤ができることを知りました。(男性 看護師)
- RRS導入の為に必要な要因を詳しく学ぶことができました。CPA後の社会復帰率が1%というのは悲しい現状であり、今のままでは身近で起こった急変にはほとんど対処できないということを思い知らされる内容でした。RRSシステムは絶対必要なシステムであり、病院を挙げて取り組むべきことは言うまでもありません。講義を受講したことで意識を高くもち続け、一人でも多くの仲間を作っていけるような環境にしていこうと思いました。(男性 放射線技師)
- 院内教育の取り組みがすばらしい、システムの導入につて、病院に支援を求めようと思いました。(女性 看護師)
- 院内のCPAの社会復帰率が低いので、早めのおかしいなと思ったら早めの対応が重要であることが理解できた。(女性 助産師)
- 「あなたの病院は大丈夫ですか？」という問いに対し、自分自身を含め、施設全体で取り組む必要を感じました。また気づきを大切に、継続して学んでいける体制作りが必要であるとも感じました。(男性 看護師)
- 院内教育の取り組みの方法、具体的事例でわかりやすかったです。(女性 看護師)
- RRSを成功させるには、教育が特に重要であることが理解できた。また受講シールは、安価で有効であり、活用したいと思った。(男性 放射線技師)
- BLSについて、当院でも新人教育として実施しているが、その時だけになってしまいがちのため、定期的な開催など病院主導で行っていく必要があると感じました。また、スタッフ自身がやらされるではなく、必要だから自ら学びたいと思うことが大切だと感じました。(男性 作業療法士)